



vol.1 院長メッセージ

## 夢と希望にあふれた 新病院づくりへ

公立宍粟総合病院

院長 佐竹 信祐

市民の皆様には、日頃より当院の円滑な運営に格別のご理解ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

当院は昭和50年に「組合立宍粟郡民病院」としてスタートしました。播磨姫路圏域における中核病院、また市内唯一の病院として地域医療を守る役割を担ってきました。この度、施設の老朽化と狭隘化に伴い、令和8年に山崎町中比地区へ移転し、新しい病院が開院する予定です。人口減少と高齢化が進む中で、限られた医療・介護資源を適正かつ有効に活用することが求められます。

新病院では急性期・回復期の病床機能を担うにあたり、医療圏域全体で病床機能別に必要とされる病床数の状況などを勘案した結果、急性期病床が95床から25床減の70床、回復期病床は84床から16床増の100床とし、全体病床数を計170床とする計画です。病床機能や病床数をまとめた整備計画は県が策定する地域医療構想の調整会議においても妥当と判断されました。

今回の新病院整備は施設の全面的な建替えになります。現段階では設計前のため、今後事業費が変わることもありますが、全国の病院整備事業の費用などを参考にして、建設工事費は93億7千万円程度と算定しています。市の単独事業としては大規模な事業になるため、その返済費用を含めた病院の運営について不安を抱く市民の声も耳にします。私は、市民の皆様への安全・安心を守る地域医療体制を確保するため、適切な整備水準を念頭に置き、これまで取り組んでまいりました。これからも良質な医療を提供するため、単にハード面での医療環境を改善するだけではなく、必要な人材の確保や医療技術の向上などソフト面の充実にも力を入れ、その両面からしっかりと進めていきたいと思っています。

これから開院までの間、皆様の期待に添える「夢と希望にあふれた新病院づくり」に向けて、病院長として全力で取り組んでまいりますので、どうぞよろしく願います。